

ふくしま県GAP 点検・評価シート(大豆・そば)(個人)【追加認証用】

認証基準である「福島県農産物安全確保のためのGAP推進マニュアル」または「福島県きのこ安心栽培マニュアル」に沿って、本シートで点検・評価を行います。申請にあたっては、点検・評価シートの写しを添付します。

1 放射性物質対策を目的とした取組

※1 ◎: 必須、○: 推奨、△: 地域限定で推奨

区分	取組事項	作業工程	対象	No.	適合基準	※1 レベル	評価			コメント
							はい	いいえ	該当なし	
ほ場準備及び汚染要因の把握	39. ほ場の放射線量と過去の収穫物等の放射性セシウム検査結果の把握	栽培前 (環境確認)	生産者	89	ほ場の空間線量及び土壌の放射性セシウム濃度を把握している。 (例) ◇ほ場の空間線量及び土壌の放射性セシウム濃度を把握	○				
		栽培前 (環境確認)	生産者	91	過去の収穫物等における放射性セシウムの検査結果を把握している。 (例) ◇過去の収穫物等の放射性セシウム検査結果を把握	◎				
ほ場準備及び汚染要因の把握	40. 大豆・そばへの放射性セシウム検出要因の理解と把握	栽培前 (環境確認)	生産者	93	大豆・そばに放射性セシウムが高濃度に検出された要因について理解している。 (例) ◇県や市町村等が行う説明会や各種情報等から、放射性セシウムが検出される要因について把握	○				
	41. 出荷制限の確認	栽培前 (環境確認)	生産者	95	出荷制限に該当するかどうか確認している。 (例) ◇出荷制限に該当するかどうかを確認	◎				
農地の除染	42. 農地の除染	栽培前 (除染)	生産者	97	作土中の放射性セシウム濃度を下げるため、農地の除染対策に取り組んでいる。 (例) ◇除染対策として、反転耕または深耕等を実施 等	△				

土壌の 管理	43. 表土除去で 剥ぎ取った土壌の 適切な管理	栽培前 (除染)	生産者	99	除染のために表土除去した土壌は適切に管理している。 (例) ◇水が地下に浸透しないように遮水シートなどを設置 ◇雨水侵入防止や飛散防止のため、遮水シート等で被覆 ◇保管場所は掲示板やロープによる囲いの設置 等	△				
	44. 作土層の確 保と丁寧な耕うん	栽培前 (土作り)	生産者	101	耕うんは、トラクター等を用い丁寧に実施している。 (例) ◇耕うんは適正な作業速度で行い、耕深を確保することによる(可能な限り)深い耕うんを実施	○				
	45. 稲わらの還 元(転換畑での栽 培)	栽培前 (土作り)	生産者	102	水稲跡の転換畑ほ場に前作の稲わらを還元している。 稲わらを還元していない場合、カリウム施肥を適正に実施している。 (例) ◇ほ場に稲わら還元を実施 ◇稲わらを還元していない場合、カリウムを含め適正な施肥を実施 等	△				
資材の 利用	46. 暫定許容値 を超える肥料・土 壌改良資材の利 用の回避	栽培 (資材管 理)	生産者	103	放射性セシウムの暫定許容値(400Bq/kg)を超える肥料・土壌改良資材・堆肥 等を使用していない。 (例) ◇肥料・土壌改良資材・堆肥等を購入したり譲り受けた時、販売業者・譲渡者 に暫定許容値(400Bq/kg)を超えていないことを確認 ◇暫定許容値(400Bq/kg)を超えた肥料・土壌改良資材・堆肥等は使用してい ない	◎				
	47. 原発事故時 に使用していた資 材等の再使用の 中止	栽培 (資材管 理)	生産者	105	原発事故時、屋外にあった資材を使用していない。 (例) ◇被覆資材等を使用する場合は、原発事故時、屋外にあった資材を使用し ていない	△				
		栽培前 (環境確 認)	生産者	107	土壌の交換性カリ含量を把握している。 (例) ◇土壌分析等により、土壌の交換性カリ含量を把握	○				

肥培管理	48. カリウムの適切な施用	栽培(施肥)	生産者	108	<p>放射性セシウム対策を考慮し適切なカリウム施用を行っている。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 土壌分析等に基づき、交換性カリ含量が大豆では25mg/100g以上、そばでは30mg/100g以上を確保するよう硫酸カリや塩化カリ等で適正なカリウム施用を実施 ◇ 放射性セシウム濃度が高くなる可能性がある地域では、交換性カリ含量の目標を50mg/100gとする ◇ 土壌分析は困難だったが、大豆・そばの検査結果や地域の状況を考慮し、慣行施肥に硫酸カリや塩化カリ等の上乗せ施肥を実施 ◇ なお、大豆ではカリ肥料を多く施用する場合、播種前の酸度矯正に苦土石灰を施用し、苦土を補給 	◎				
		栽培(施肥)	生産者	110	<p>適正な基肥窒素の施肥、適期播種、適正な播種量など基本技術の実施等により倒伏防止対策に配慮している。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 倒伏の危険を回避した肥培管理の実施 ◇ 倒伏防止のため、播種時期や播種密度に留意 ◇ 培土作業の実施 	○				
栽培から収穫、出荷までの管	50. 収穫・乾燥・調製時における土壌や異物の混入防止	栽培後(収穫)	生産者	111	<p>収穫時の土壌の持込みを防止するため、大豆・そばが土壌に触れないように刈取作業を実施している。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 土壌を巻き込まないようにコンバイン等の刈り高を適切に設定 ◇ 土壌を巻き上げないように慎重に作業を実施 ◇ 倒伏が著しい場合は他のほ場と区別して収穫を実施 ◇ 収穫作業は雨天時を避けて実施 	○				
		栽培後(収穫)	生産者	112	<p>農業機械や運搬車両を利用した後は、土壌やほこりが残らないように清掃を実施している。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ トラクターやコンバイン等の格納時には足回りの洗浄・清掃を実施 	○				
		栽培後(収穫)	生産者	113	<p>一度使用した収穫袋やフレコンバックを再利用する場合は、汚れやゴミ等の付着がないことを確認している。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 原子力発電所事故前から利用されている収穫袋等は使用しない ◇ 汚れやゴミが付着した収穫袋等は利用しない 	○				

理		栽培後 (調製)	生産者	114	調製作業(選別、計量・袋詰め)の前に機器の点検・清掃を徹底し、異物やゴミの混入防止を図っている。 (例) ◇選別機等の直接大豆・そばに触れる農機具については使用前の点検・清掃を徹底 ◇異物やゴミが混入しないよう作業場を清掃 ◇床にこぼれた大豆・そばは選別機等に再投入しない	○					
		栽培後 (調製)	生産者	115	収穫されたそばを磨き機で丁寧に磨いている。 (例) ◇磨き機による丁寧な磨きを実施	○					
	51. 出荷前の安全性の確認	栽培後 (出荷)	生産者	116	出荷可能地域であるかを確認している。 (例) ◇出荷可能地域であるかを確認	◎					
		栽培後 (出荷)	生産者	117	放射性セシウムの検査が終わるまでの間、大豆・そばを保管場所で管理している。 (例) ◇放射性セシウムの検査が終わるまでの間、大豆・そばをあらかじめ決められた保管場所で確実に管理	◎					
農作業時の安全確保	52. 放射性物質が含まれる可能性のある粉じんの吸入、土壌・水との接触の回避	共通 (安全対策)	生産者	119	農作業により巻き上がる粉じんや土壌の吸入、接触を回避している。 (例) ◇土壌が乾燥している時の耕うんや草刈り作業等で粉じんを吸入する恐れがある場合は、皮膚や顔が露出しないよう、なるべく帽子、マスク、長袖、長ズボン、ゴム手袋、ゴム長靴等を着用 ◇農作業後は手足、顔等の露出部分を洗浄 ◇屋外作業後に、屋内作業を行う場合は、服を着替える等して、屋内にちり、ほこり等を持ち込まない	○					